

穂高広域施設組合 最終処分場選定に係る補足調査報告書 概要版

本補足調査は、予備候補地 10 箇所から絞り込まれた第一次候補地 3 箇所について、活断層に関する文献調査や、地滑りに関する現地調査、被覆型処分場の立地構造に関する検討、立地イメージスケッチ作図、跡地利用に関する考察を行い、最終処分場候補地の比較評価の見直しに関する資料作成を行うものである。

1 第一次候補地位置及び現地写真



図1 第一候補地位置図

2 候補地の活断層・地滑り・土砂災害危険箇所

表1 候補地の活断層・地滑り・土砂災害危険箇所の要約

項目	活断層	地滑り (空中写真判読結果)	土砂災害危険箇所		
			地滑り 危険箇所	急傾斜崩壊 危険箇所	土石流 危険渓流
明科	西方 2.3km に松本盆地東縁断層(活動セグメント神城)が位置する。本断層は東傾斜の衝上断層と考えられている。	候補地山体の南北両側の下部斜面に小規模な地滑り地あり。山体頂部はもととも段丘の平坦面であり、安定していると推定される。	候補地は全体に地滑り危険箇所に含まれている。	候補地山体の斜面にはない。	候補地の南北両側の沢は土石流危険渓流であるが、候補地に土石流災害が及ぶ可能性はない。
豊科	西方 0.8km に松本盆地東縁断層(活動セグメント神城)が位置する。本断層は東傾斜の衝上断層と考えられている。	約 300m 未満の直上流・右岸側斜面に明瞭な滑落崖および移動塊がある(幅 150m、長さ 250m 以上)。	1km 以内には指定された箇所はない。	候補地に隣接する東西両側の山体の、道路に面する斜面は危険箇所に指定されている。	候補地の 0.6km 以内にはない。上流側に小規模な危険渓流があるが、候補地に災害が及ぶ可能性なし。
堀金	西方 0.4km に確実度Ⅲの活断層があるが、この断層が存在する根拠は殆ど示されていない。また、西方 2.4km に常念岳断層(活動セグメント常念岳)が位置する。常念岳断層は西傾斜の逆断層である。	西方 0.7km 以内の斜面下部に、古い地滑り(岩滑り)による移動塊の可能性のある岩体が認められる。幅 400m 程度の大きな岩体であるが、既に安定していると推定される。	なし。	西方約 0.3km の下部斜面は危険箇所に指定されている。	候補地に災害を及ぼす渓流はない。

3 第一次候補地の活断層及び土砂災害危険箇所分布図

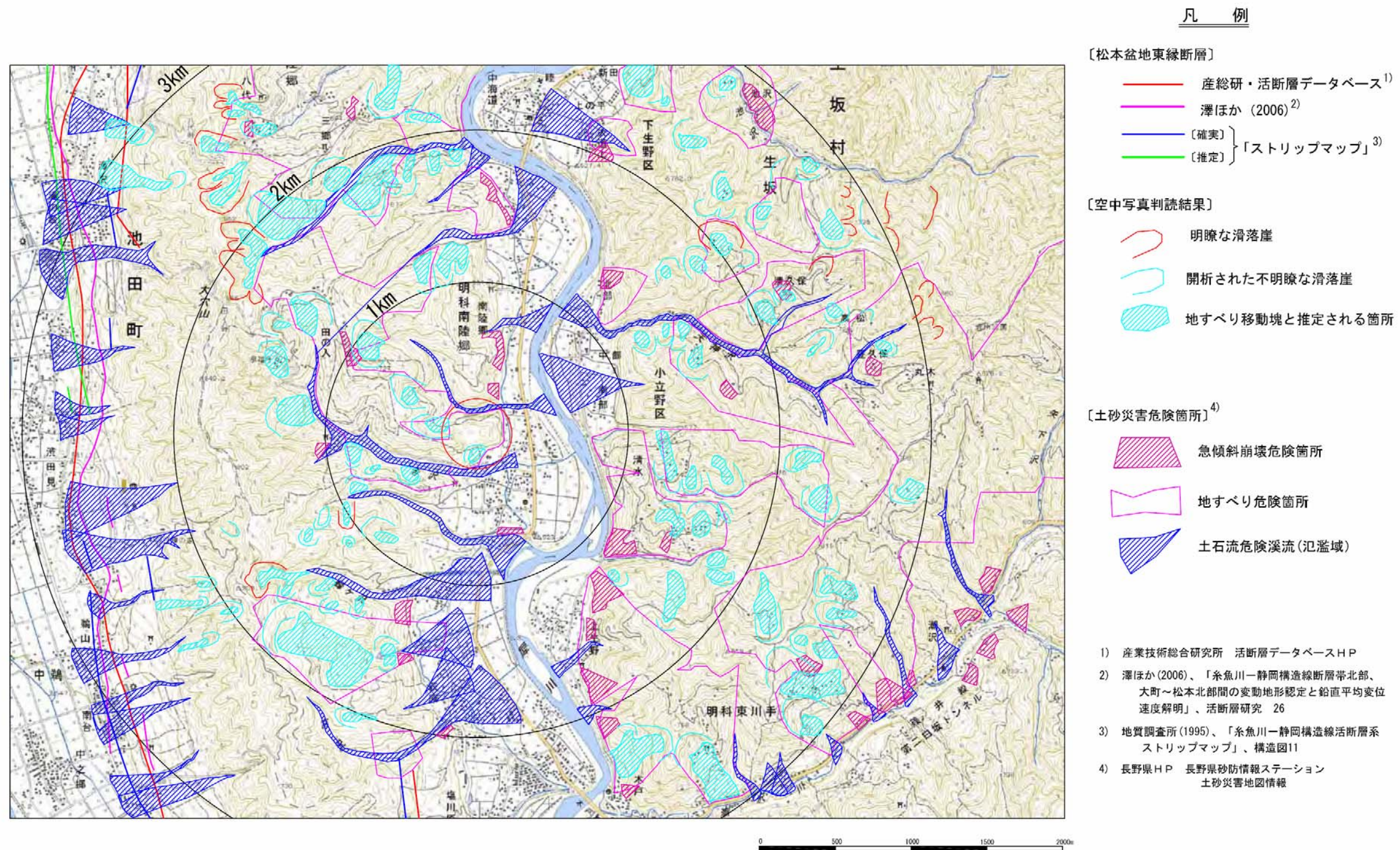
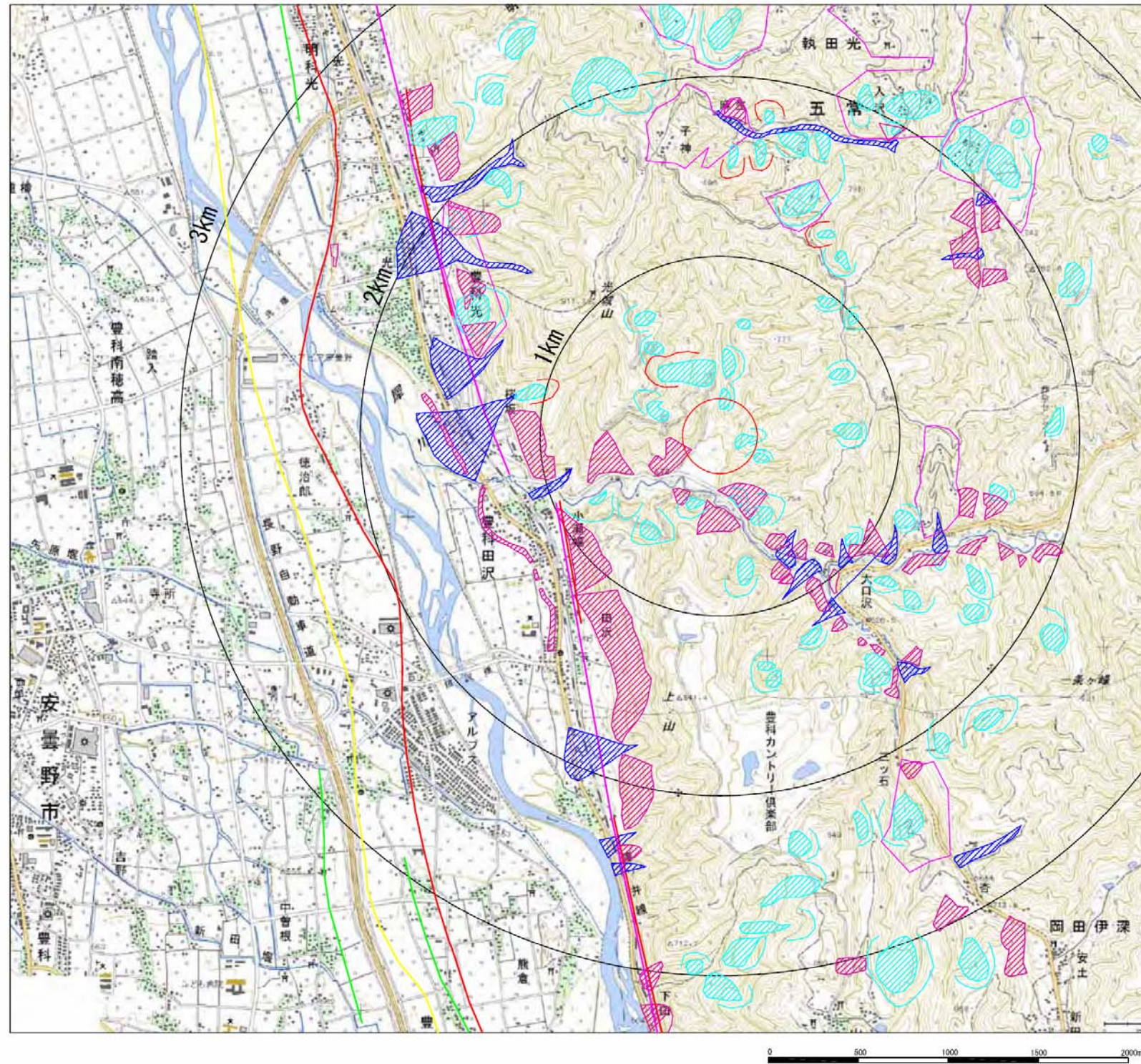
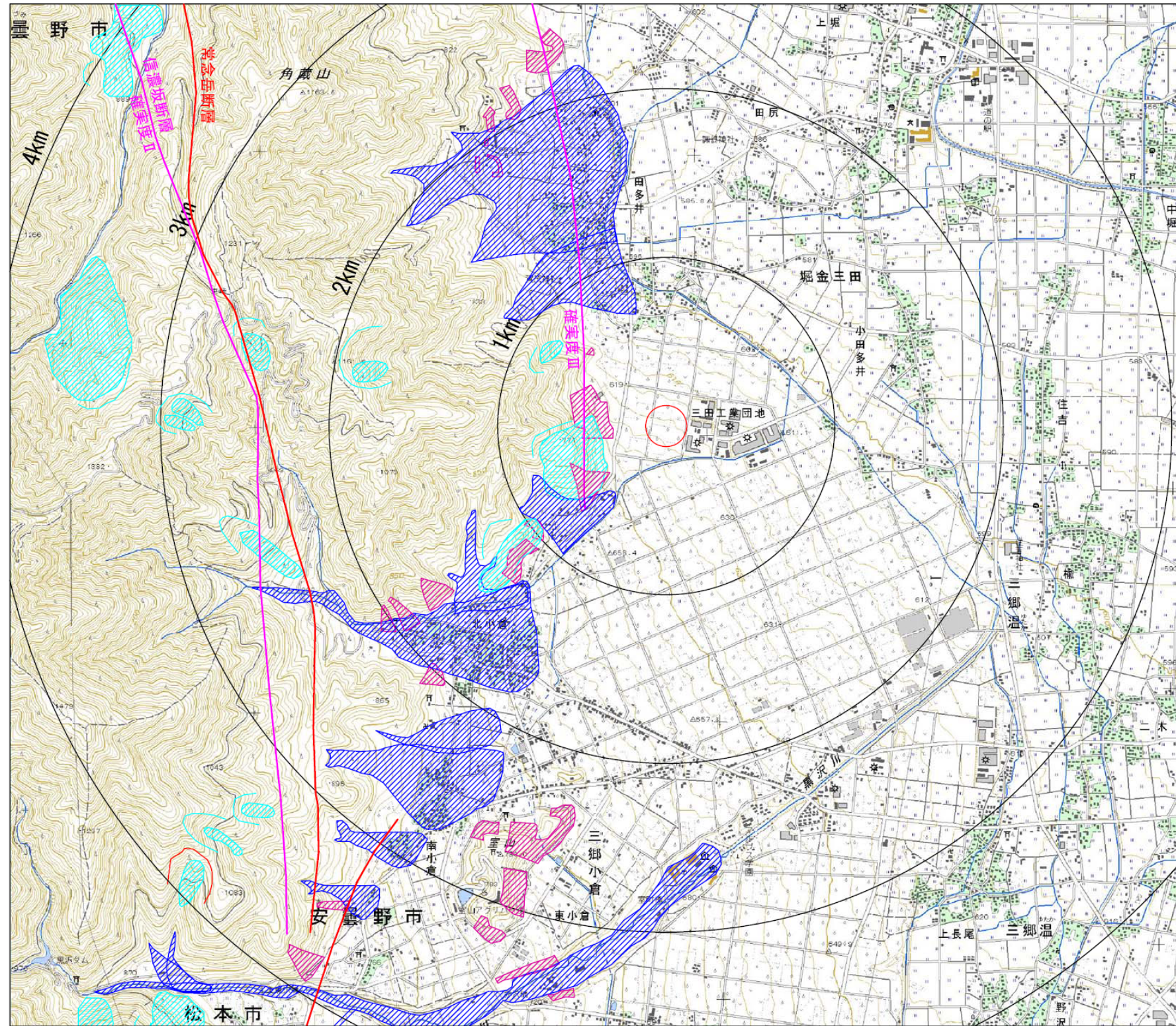


図2 活断層及び土砂災害危険箇所分布図(明科候補地)



- 凡 例**
- 【松本盆地東縁断層】
- 産総研・活断層データベース<sup>1)</sup>
  - 近藤ほか(2006)<sup>2)</sup>
  - 澤ほか(2006)<sup>3)</sup>
  - (確実度Ⅱ)「ストリップマップ」<sup>4)</sup>
- 【空中写真判読結果】
- 明瞭な滑落崖
  - 開析された不明瞭な滑落崖
  - 地すべり移動塊と推定される箇所
- 【土砂災害危険箇所<sup>5)</sup>】
- ▨ 急傾斜崩壊危険箇所
  - ▨ 地すべり危険箇所
  - ▨ 土石流危険溪流(氾濫域)
- 1) 産業技術総合研究所 活断層データベースHP  
 2) 近藤ほか(2006)、「糸魚川-静岡構造線活断層系・松本盆地東縁断層南部に沿う左横ずれ変位地形」、地学雑誌 115、2  
 3) 澤ほか(2006)、「糸魚川-静岡構造線断層帯北部、大町~松本北部間の変動地形認定と鉛直平均変位速度解明」、活断層研究 26  
 4) 地質調査所(1995)、「糸魚川-静岡構造線活断層系ストリップマップ」、構造図11  
 5) 長野県HP 長野県砂防情報ステーション 土砂災害地図情報

図3 活断層及び土砂災害危険箇所分布図(豊科候補地)



凡 例

- 〔活断層〕
- 産総研・活断層データベース<sup>1)</sup>
  - 「日本の活断層」<sup>2)</sup>

- 〔空中写真判読結果〕
- 明瞭な滑落崖
  - 開析された不明瞭な滑落崖
  - 地すべり移動塊と推定される箇所

- 〔土砂災害危険箇所<sup>3)</sup>〕
- 急傾斜崩壊危険箇所
  - 土石流危険渓流(氾濫域)

1) 産業技術総合研究所 活断層データベースHP  
 2) 活断層研究会(1991)、「新編日本の活断層—分布図と資料」、東京大学出版会  
 3) 長野県HP 長野県砂防情報ステーション 土砂災害地図情報

図4 活断層及び土砂災害危険箇所分布図(堀金候補地)

4 第一次候補地周辺の現地調査結果

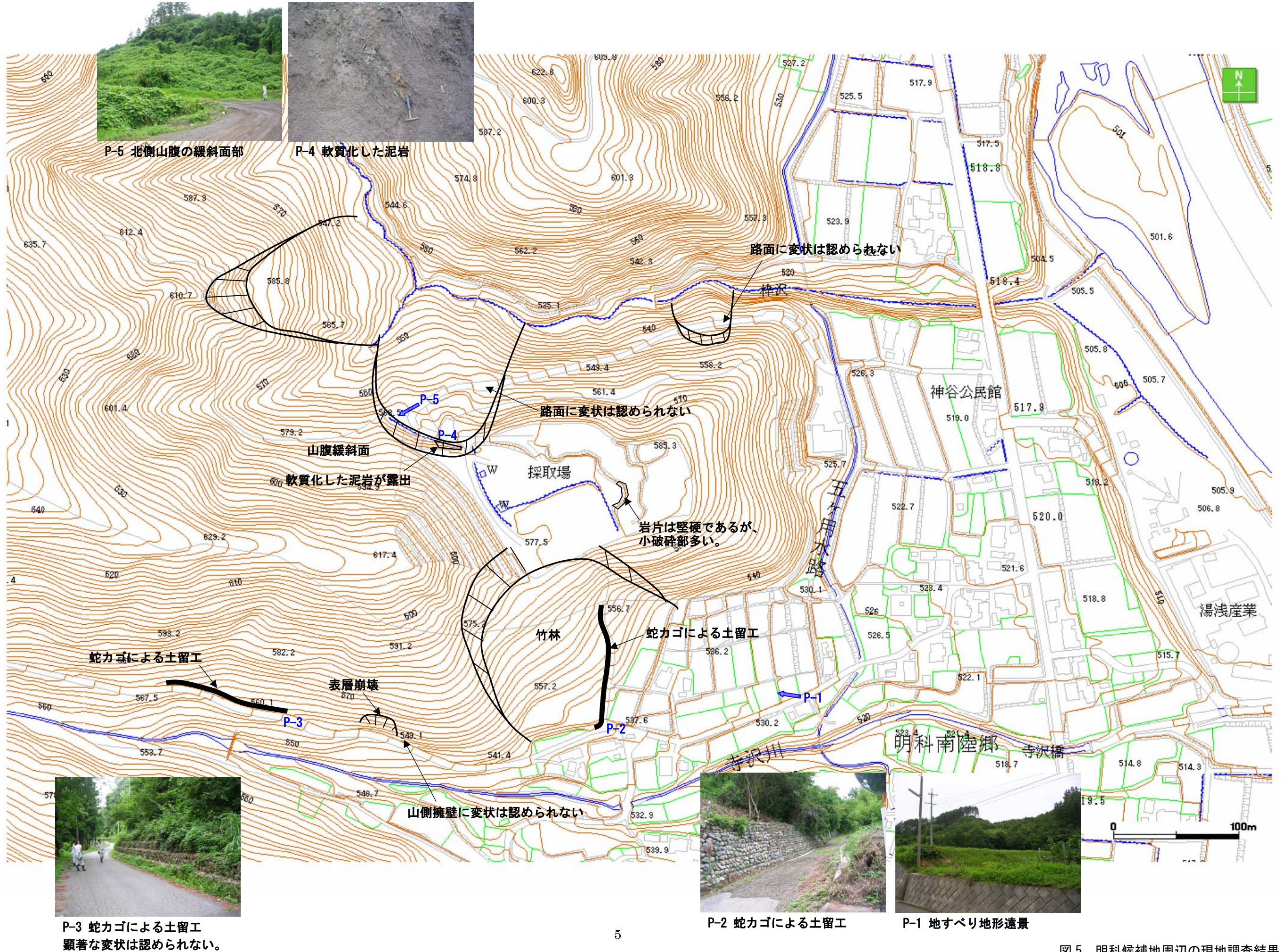
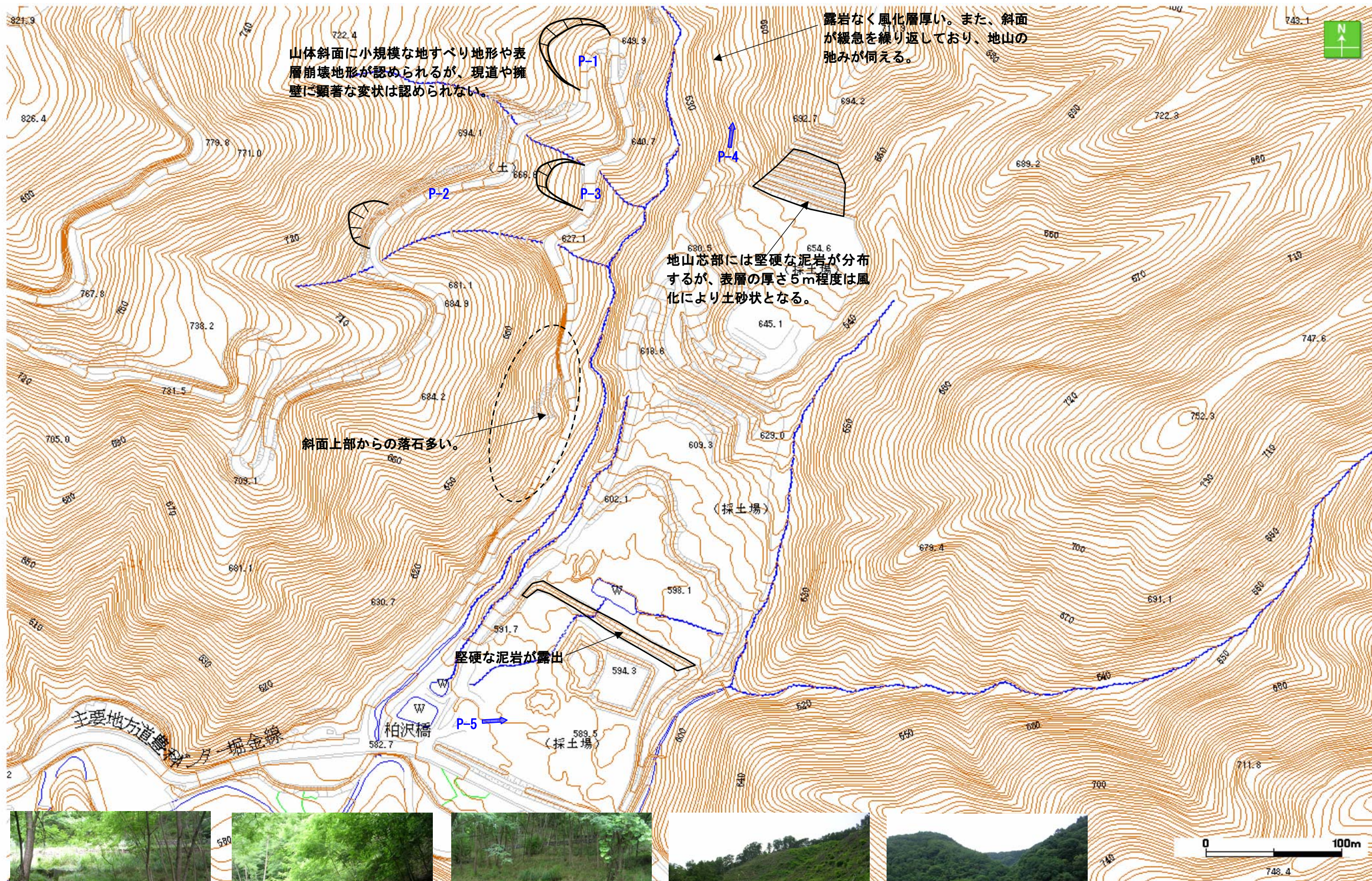


図5 明科候補地周辺の現地調査結果



P-1 小規模な地すべり地  
蛇かごによる山留工が設置されている。



P-2 道路擁壁状況  
擁壁や路面に変状は認められない。



P-3 小規模な地すべり地  
蛇かごによる山留工が設置されている。擁壁に変状は認められない。



P-4 採石場奥の地山状況  
露岩なく風化層厚い。また、斜面が緩急を繰り返しており、地山の弛みが伺える。



P-5 採石場から左岸の谷を望む  
谷の源頭部は地すべり地となっているが、採石場からは確認できない。

図6 豊科候補地周辺の現地調査結果



P-3 山体山裾部の緩斜面

P-2 鳴沢川上流方向を望む  
正面の山体斜面に顕著な崩壊は認められない。

P-1 鳴沢川下流方向を望む  
地形は左岸方向へ傾斜している。

図7 堀金候補地周辺の現地調査結果

表2 第一次候補地の被覆型最終処分場の立地イメージ

候補地	候補地航空写真 〔地質現地調査考察〕	全体配置イメージ図	鳥瞰イメージ図	敷地面積・施設構成・埋立地構造緒元 跡地利用可能性考察	処分場立地構造考察
明科	 <p>① 採土場が位置する山体は大規模で、採土場には比較的堅硬な泥岩が分布しているため、地耐力に関する問題は少ないと思われる。</p> <p>② 下部斜面には数箇所で地すべり地が認められる。これら地すべりは活動していないが、搬入道路整備に際しては不安定化しないよう対策工法が必要。</p>	 <p>【明科候補地 被覆型最終処分場 全体配置イメージ】</p>	 <p>【明科候補地 被覆型最終処分場 立地イメージ】</p>	<p>【敷地面積】約 2ha (取付道路、採土場現有西側法面除く)</p> <p>【施設構成】 埋立地、管理棟・浸出水処理施設、雨水調整池</p> <p>【埋立地構造】 埋立地構造：鉄筋コンクリート構造 埋立地寸法：幅 35m×長 110m×深 7m×2 基 埋立面積：7,700m<sup>2</sup> 埋立地容量：53,900-1,400(スロフ) = 52,500m<sup>3</sup> 被覆設備：鉄骨折板葺き(全体被覆)</p> <p>【跡地利用可能性考察】 南陸郷集落が近く地域活用としてインドアスポーツ施設、農業用倉庫、緊急避難場所や、その他として防災倉庫等の可能性が考えられる。</p>	<p>① 現況は採土場。</p> <p>② 採土場面積が比較的小さいため埋立地は鉄筋コンクリート構造で深い構造としている。</p> <p>③ 取付道路延長は、国道 19 号からは約 520m。山裾からは約 400mで、高低差約 57m。現況道路の拡幅主体の改修となる。</p> <p>④ 採土場の現況地盤高は+578mで、埋立地は 2m分を埋設して設置。周囲を 5m盛土して敷地高を+583mとし、埋立地天端と同レベルとする。</p> <p>⑤ 5m盛土の外周法面には高木植栽を行う。</p>
豊科	 <p>① 採土場には堅硬な泥岩が分布しているため、地耐力に関する問題はない。</p> <p>② 西側の山体及び、採土場奥の山腹西面表層は弛みが顕著で、表層崩壊の発生が懸念されるが、前者は候補地との間に深い沢があり、後者は西側沢方向に向くため、崩積土塊が候補地内に流入する可能性は低いと思われる。</p>	 <p>【豊科候補地 被覆型最終処分場 全体配置イメージ】</p>	 <p>【豊科候補地 被覆型最終処分場 立地イメージ】</p>	<p>【敷地面積】約 3.5ha (奥部の採土場とその進入路除く)</p> <p>【施設構成】 埋立地、管理棟・浸出水処理施設、雨水調整池</p> <p>【埋立地構造】 埋立地構造：鉄筋コンクリート構造 埋立地寸法：幅 35m×長 110m×深 7m×2 基 埋立面積：7,700m<sup>2</sup> 埋立地容量：53,900-1,400(スロフ) = 52,500m<sup>3</sup> 被覆設備：鉄骨折板葺き(全体被覆)</p> <p>【跡地利用可能性考察】 山間部で周辺集落とは 0.5~1km と、ある程度距離があるが生活道路でもある県道 57 号線に面し、地域活用としてインドアスポーツ施設、農業用倉庫、その他として防災倉庫等の可能性が考えられる。</p>	<p>① 現況は採土場。</p> <p>② 奥部は採土途中状態で、奥部まで造成すると面積が広くなり大規模土工となるため、造成面積を小さくして採土場所からの離隔距離を確保した。</p> <p>③ 造成面積を小さくするため埋立地は鉄筋コンクリート構造。</p> <p>④ 東側沢の支流沢奥部で過去に地滑り有るため、緩衝幅確保。</p> <p>⑤ 敷地は現況地形を活用した 2 段造成。手前下段は+585mで管理棟・浸出水処理施設を配置し、搬入車はこの前を通り上段(+592m)に上がり埋立地へ進入する。</p>
堀金	 <p>① 西側の山体は安定しており、候補地からの距離もあるため、斜面崩壊による影響は少ないと思われる。</p> <p>② 南側を西から東へ流下する鳴沢川は土地改良事業により流路が直角に曲げられているが、屈曲部には沈砂地が設置されているため、流下土砂が氾濫する可能性は低いと思われる。</p>	 <p>【堀金候補地 被覆型最終処分場 全体配置イメージ】</p>	 <p>【堀金候補地 被覆型最終処分場 立地イメージ】</p>	<p>【敷地面積】約 4.4ha</p> <p>【施設構成】 埋立地、管理棟・浸出水処理施設、雨水調整池</p> <p>【埋立地構造】 埋立地構造：補強盛土構造(法勾配 1 : 0.3) 埋立地寸法：幅(上 37m、下 33.4m) ×長(上 130m、下 126.4m)×深 6m×2 基 埋立面積：9,620m<sup>2</sup> 埋立地容量：54,190-1,500(スロフ) = 52,690m<sup>3</sup> 被覆設備：鉄骨折板葺き(全体被覆)</p> <p>【跡地利用可能性考察】 隣接する集落はないが生活道路である県道 25 号線から近く、地域活用としてインドアスポーツ施設、農業用倉庫、その他として防災倉庫等の可能性が考えられる。</p>	<p>① 現況は果樹園。</p> <p>② 敷地は南北に約 400m、東西に約 105mと細長く、高低差が +616~+630m と 14m あるため、敷地は 3 段造成(+616m、+623m、+630m)で埋立地は 2 分割としている。</p> <p>③ 面積が比較的大く土砂地盤と想定されることから、埋立地は経済的な補強盛土壁構造としている。</p> <p>④ 西側は畑地に隣接するため現況レベルで幅 5mの緩衝緑地帯を設置している。</p>



